

## 市内小中学生の基本的な生活習慣の実態とその対策について

安藤 佳生

〔質疑〕少子化、核家族化、情報化、都市化等の急激な社会変化の中で、子ども達の生活も変化してきている。

次代を担う子ども達に夢や希望を大きく持って努力する姿を求める時に社会全体で今の環境を見つめなおす必要がある。生活習慣の育成には、家庭教育が中心になると思う

が学校や地域社会での教育とどのように関わらせて育成するのか、教育委員会の施策を伺いたい。

(1)生活習慣アンケートから、何が課題になったのか。  
(2)「白石市子どもを育てるヒント集」の今後の活用方法について

(3)地域社会との関連で特に訴えたいことは何か。

## 指定管理者制度における管理業務について

制野 敬一

〔質疑〕行政改革の一環として平成17年4月より指定管理者制度がスタートした。

各まちづくり協議会等では地域住民の期待を背負い地域の利便性を最優先として前向きに取り組み頑張っている。

今後、行政面、防災面など協議会等との綿密な連携、相互協力が不可欠であると考え

る。

これらの観点から指定管理者でもある協議会等との情報交換や、その位置づけを明確にしなければならぬと考え、その所見を伺いたい。

〔答弁〕5月に、小学1年生を除く市内の全児童・生徒に対し生活習慣に関するアンケート調査を行った。

「毎日朝ご飯を食べるか」「何時に寝るか」そして平日のテレビ、ゲームの視聴時間の調査項目であったが、朝ご飯は食べるように改善されてきたけれども、「早寝早起き朝ごはん」の生活リズムの回復とテレビ、ゲームの時間の短縮が大きな課題になると思っている。

生活習慣は、もともと家庭

においてその基礎が形成されると思う。

よって、教育委員会として、「子育ては親育て地域育て」をベースにしながら、共通して取り組む「白石市子どもを育てるヒント集」を平成16年に発行し、内容を更新してきた。

現在、活用方法について各学校で工夫しており、就学時健診、一日入学、PTAの懇談会、学習参観日等において資料として利用している。

地域との関わりについては、

実させ同管理者の資質の向上に強力で支援を行って参りたい。

災害時における連携については、各種災害において地区公民館は、情報収集、また伝達の拠点となっており、現に台風4号、9号においても、地域の本部として災害対策活動を行った地区があった。

今後とも、まちづくり協議会には、地域の災害時対応の中核としてその役割を期待しているところである。

このようなことから、指定管理者の業務仕様書に、災害

基本的には集団生活や社会生活に関するものなので、家庭での指導と同時に集団で生活の行われる学校、あるいは地域での諸活動が非常に有効だと考えている。

よって、社会教育課を通じて地域の諸活動にできるだけ多く参加を呼びかけ、家庭においてもできるだけ多く自然の体験活動をするように呼びかけながら、指導の充実を図っているところである。

の措置や市への通報について記載しているところである。

まちづくり協議会と消防団、自主防災組織などの防災関係機関と、市職員が連携して、災害時に対処するため、白石市地域防災計画にまちづくり協議会の位置づけを明確にし、協議を行ってまいりたい。